

★講座レポート★

講座名：平成 30 年度家庭教育セミナー②
テーマ：「おこづかい」が子どもの人生を変える
家庭でのおこづかい教育
講師：ジブラルタ生命保険(株)北大阪支社ディレクター 植村律子さん
日時：平成 30 年 9 月 27 日（木）午前 10 時から正午
場所：上中条青少年センター会議室
参加者：41 人
講義概要：以下のとおり

今回の家庭教育セミナーは、ジブラルタ生命保険(株)様より講師を派遣いただき、家庭でのおこづかい教育について考えました。

金融知力普及協会監修のテキストを用い、「お金」という道具とどう付き合うか、お金と自分の欲望をコントロールする力を身に付けるため、おこづかいの管理から人生に通じる良い習慣を身に付けられるということで、具体的なおこづかいの与え方、習慣の作り方について、講師ご自身の子育て経験も交えお話しただきました。親自身の金銭管理についても言及いただき、身につまされる思いでした。5～6 人のバズトークでは活発に意見交換もなされ、有意義な講座となりました。以下、講座のまとめと参加者の感想をご紹介します。

（報告者：茨木市教育委員会社会教育振興課講座担当者）



“おこづかい”は人生の習慣

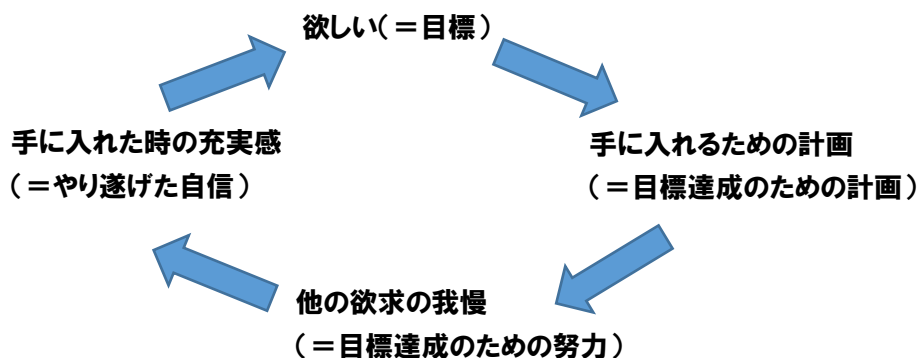
ちょっとしたことで人生が破綻してしまう時代

→「お金」という道具とどう付き合うか、その使い方を覚えること、
お金と自分の欲望をコントロールする力を身に付けることが重要！

お金との付き合い方を教えるのは「しつけ」と同じ

- ・自分で考えさせる
- ・我慢させる
- ・失敗させて学ばせる
- ・うまくできたら褒めてあげる
- ・子どもは親の鏡

⇒おこづかいの管理を通じて、人生に通じる良い習慣が身につく



“おこづかい”をはじめよう

まずは親の真剣さが必要

親が途中で忘れてたり、中途半端にあると、敏感に子どもは感じ取る
用意するもの

・おこづかい袋 ・ちょきん袋 ・財布 ・子ども名義の銀行口座

おこづかいは「おこづかい袋」で！

おこづかい袋にお金を入れて渡す。

1 か月のお金の管理を子ども自身にさせる

お金を使ったらレシートをおこづかい袋に保管

「おこづ会議」を開く

月の収支を親と一緒に計算。収支があっていたら褒める。

管理できていたらおこづかいを増やす！

失敗してもペナルティはなし

叱らず思い出させる。

貯金もさせる

月初に、当月のおこづかいと先月の残り分を足した 1/3 をちょきん袋へ。

ちょきん袋・・・子どもに管理させ、ここから使う時は親に報告させる。

1,000 円以上の臨時収入もここへ。5,000 円程度たまれば銀行口座へ。

5つのルール

1. お金の使い方を助言するのは「**おこづ会議**」の時だけ
2. おこづかいを子どもに管理させる
3. 叱る時は、不正直・不公正を行ったときだけ
4. 借金、前借りは認めない
5. 何かを買うことに興味を持ったらおこづかいを始めるチャンス

おこづかいの4つの利点

1. お金との付き合い方がわかる
2. 子どもと語り合う時間が持てる
3. 自分の欲望をコントロールできる
4. 「買って、買って攻撃」からの解放

おこづかいの金額を決める

月々の金額

参考：講師の場合 小学生 100 円×学年 中学生 1000 円×学年
子どものおこづかい額（月平均）

（出典：金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」より抜粋）

平成 27 年度

小学 1・2 年生 1,070 円 小学 3・4 年生 1,145 円 小学 5・6 年生 1,226 円

中学生 2,448 円 高校生 5,509 円

しっかり管理できた時の増額の金額
月初の1/3は貯金することを念頭におく

こんな時は？（5～6人でのバズトーク後、グループ発表と講師解説）

- 値段の高いものをねだってきたら？
本当に必要なものか、親子で一緒に考える
- 文房具など学校で使うものはどうする？
学用品として必要なものは親が、キャラクターものなどその範囲を超えるものはおこづかいで。
- お手伝いにお駄賃をあげるべき？
お金目的でなく、気持ちでやってほしいからあげない。
将来必要な交渉力を養うことができるという面もある。
- よい成績のご褒美におこづかいをあげるべき？
勉強は子どもの本分。ごほうび行為（旅行やごちそう等）で表す。
- お年玉はどうする？
1万円を限度にして、その範囲内は自由に使ってよいとする。

- お財布をなくした！
決して叱らない→子どもは十分わかっている。ショックを受けている。
自分で探させる。お財布はおこづかいから購入する。

親の行動は見られています

親にも計画性が必要

貯金をしてる？何のための貯金か？

貯金ができる時期

独身の時・子どもが小さい間・子どもが自立してから

子どもの教育費、いくら必要？

大学卒業まで、一人あたりトータルで1000万円以上必要。

老後はどんなふうに暮らしたい？

年金をどれくらいもらえる？

基礎年金額は64,941/月・人

→まずは家計の把握から！

参加者感想（抜粋）：

- 「おこづかい袋」「貯金袋」を使ったやり方が参考になりやってみたいと思いました。
- 「おこづかい会議」は良いと思いました。
お金の使い方を話し合う事で総合的な生活内容についても話せると思います。
- とても参考になりました。まだ、子供が小さく、お小遣いの必要性を感じていなかったで

すが、しつけの一環として、是非、取り組む課題だと思いました。

- 手出し、口出しをしまいそうな所をグッと堪え子供に任せてみようと思いました。自分で考えて行動出来る様に親の私達も色々考えなければいけないと思いました。
- お小遣いについて、他のご家庭のルールや様子を聞く事が出来て、とても勉強になりました。改めて、我が家でのお金の考え方について考えてみようと思います。
- お小遣いだけにとどまらず、最後の先生の子育てのお話も印象深かったです。本人に失敗も経験として、自分と同じ失敗をさせないようにと先回りするのではなく、糧になると考えようと思いました。
- お小遣いセミナーでしたが、子育て全般に繋がる事が多くて大変、参考になりました。4人も子育てされている講師の先生の実体験からのお話が興味深かったです。
- お小遣いの事だけでなく、家計も考えるキッカケになりました。
- 自分の人生の計画をもう一度、お金も含めて再考しようと思います。

